

記録的な豪雨による大規模災害への対応について

～平成29年7月九州北部豪雨と平成30年7月豪雨による災害～

この度の豪雨により被災された方々に対しまして、心より深くお見舞い申し上げます。

記録的な豪雨等による大規模な災害が毎年のように続けて発生しています。平成29年7月九州北部豪雨による災害発生から1年が経過する中、被災した地域での災害復旧を着実に進めるとともに、今般発生した平成30年7月豪雨による災害にも迅速に対応しています。今現在におけるこれらの対応状況をお知らせします。

平成29年7月九州北部豪雨災害に対する治山対策等の実施状況

平成29年7月九州北部豪雨では、記録的豪雨により多数の山腹斜面が崩壊し、大量の流木による甚大な被害が発生しました。この豪雨災害の発生を受け、林野庁は、被災県等と連携した現地調査、災害復旧に着手するとともに、「流木災害等に対する治山対策検討チーム」を設置して、効果的な治山対策の在り方について取りまとめ（「林野」平成29年12月号参照）、全国において緊急的・集中的な流木対策に取り組んでまいりました。

●被災地の復旧整備

九州北部豪雨により被災した治山施設、林地等について、緊急に復旧整備を行う災害復旧等事業を実施しています。福岡県及び大分県内において採択された災害復旧等事業336地区のうち、193地区において復旧工事に着手しています（6月30日現在）。



大型土のうによる応急対策
(福岡県朝倉市)



崩壊斜面の復旧状況
(大分県日田市)

●民有林における国直轄事業の実施

大規模な林地被害を受けた朝倉市内の民有林において、福岡県知事からの要望等を踏まえ、国の直轄事業である民有林直轄治山事業に取り組んでいます。



【主な対策①】流木捕捉式治山ダムの設置
溪床を安定させるとともに、流木を捕捉します。



【主な対策②】山腹工の実施
山腹斜面を安定させ、植生の回復を図ります。

このほか、全国の森林において緊急的・集中的に流木対策が必要な地区を抽出し、流木捕捉式治山ダムの設置等の対策を進めています。

※「平成29年九州北部豪雨から1年～これまでの林野庁の取組について」は、林野庁ホームページでご覧いただけます。
ホームページ：<http://www.rinya.maff.go.jp/j/saigai/joho/2907gouu.html>



平成30年7月豪雨による災害への対応状況

6月28日以降、発達した梅雨前線等が西日本を中心に記録的な大雨を降らせ、各地で山腹崩壊、土石流等による甚大な被害が発生しています。

この豪雨災害の発生を受け、林野庁では、被災県等と連携してヘリコプター調査等により被害状況の把握に努めるとともに、技術職員からなる「山地災害対策緊急展開チーム」を被災地に派遣し、災害復旧に向けた調査、設計等を集中的に支援しています。



土石流の発生状況（広島県東広島市）

また、「平成30年7月豪雨を踏まえた治山対策検討チーム」を設置し、多数発生した山腹崩壊、土石流等の発生メカニズムの検証、今後の治山対策の在り方の検討を進めています。

引き続き、被災県等と連携し、早期復旧に取り組んでまいります。

※「平成30年7月豪雨によって発生した災害への対応について」は、林野庁ホームページで随時更新しています。
ホームページ：<http://www.rinya.maff.go.jp/j/saigai/joho/30saigainishinon.html>



「平成30年7月豪雨を踏まえた治山対策検討チーム」の設置について

目的

- マゼ土等の脆弱な地質地帯において、広範囲の地域に及んだ記録的な集中豪雨により、多数発生した山腹崩壊、土石流等の発生メカニズムを検証した上で、今後の効果的な治山対策の在り方を検討。

検討内容

- 平成30年7月豪雨による山地災害の現地調査（広島県、愛媛県）
- 関係資料の収集と発生メカニズムの分析
- 上記の調査結果を踏まえた、今後の効果的な治山対策の検討

<検討体制>

平成30年7月豪雨を踏まえた治山対策検討チーム	学識経験者等
チーム長 森林整備部長 チーム員 治山課長(事務長) 整備課長 業務課長 総務企画課室長	提言 (発生メカニズムの解明 ・効果的な治山対策)

今後のスケジュール(案)

- 7月 被害状況の把握と当面の対応の検討
(学識経験者等による現地調査(広島県、愛媛県):7/26(木)～7/29(日))
- 8月 現地調査の結果のとりまとめと発生メカニズムの分析
- 9月 対応方針等の検討
- 10月 学識経験者等による検討会の開催と提言
平成30年7月豪雨を踏まえた効果的な治山対策(中間取りまとめ)

集中豪雨災害を念頭に置いた治山対策の推進